

# 令和4年1定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和4年3月11日

質問者 日本共産党 真下 紀子 議員

担当部課 総合政策部政策局参事

質問要旨	答弁要旨
<p><b>二 新型コロナウイルス感染症対策について</b>  <b>(一) まん延防止等重点措置の延長効果について</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症は、変異を繰り返し、亡くなる方が最悪の水準となり、新規感染者の減少も鈍化しています。知事は、執行方針の中の医療提供体制の確保において、自宅療養、ワクチン、検査等を柱としました。こうした中で3月7日から再びまん延防止等重点措置を延長していますが、飲食店に特化した対策を継続することに、専門家からも「効果がない」と疑問視する声が上がっています。重点措置の延長の効果を、根拠をもって説明できるのか、お伺いしたい。</p> <p>感染が広がっているのは、高齢者施設、保育園や学校、医療機関、家庭であり、飲食店中心の対策は限界ではありませんか。実態に合わせた対策に練り直しが必要と考えますが、知事に見解を伺います。</p> <p><b>【再質】</b></p> <p>第6波では、入院も宿泊療養も出来ない陽性者は最高時は1日3万人を超え、第5波の8倍、陽性者の療養先はほとんどが自宅です。保健所体制のひっ迫により検査も受けられず、見なし陽性とされます。これが北海道のコロナ療養の実態です。</p> <p>参院予算委員会の公聴会で倉持仁医師は、新たなコロナに問題意識をもって対応することが必要だと述べました。感染が広がっている場所の対策をどうするのか。また、知事はオミクロン株BA.2は感染力が強いとも答えましたが、まん延防止等重点措置を漫然と継続するだけではなく、その対策を新年度どうとるのですか。感染症対策の原則、検査、保護、隔離に立ち返り、感染を抑制し、確実に治療に繋げる方策への転換が必要ではありませんか。お聞きします。</p>	<p><b>【知事】</b></p> <p>感染防止対策についてであります。まん延防止等重点措置に対する道民の皆様や事業者の方々のご理解とご協力により、急拡大してきた新規感染者数はピークを越え、減少傾向が続いております。</p> <p>しかしながら、より感染力の強いBA.2系統の感染事例が確認されたほか、全道の病床使用率は高止まりとなるなど、道内の感染状況や医療への負荷は、予断を許さない状況が続いていることから、有識者の方々等のご意見を伺った上で、引き続き、重点措置の下、感染防止行動の徹底を図ることとしたところであります。</p> <p>道としては、新規感染者数をさらに減少させ、医療への負荷を着実に抑えていくため、3月21日までの間、感染リスクの高まる、飲食の場面における対策に加え、高齢者施設や学校、保育所など感染が広がっている場所における対策の徹底を図りながら、ワクチンの追加接種をはじめ、経口治療薬を提供する医療機関等の拡充、第三者認証の取得促進などの取組を集中的に進めてまいります。</p> <p><b>【知事】</b></p> <p>感染防止対策についてであります。現在、新規感染者数は減少傾向となっているものの警戒が必要な状況が続いていることから、まずは、新規感染者数をさらに減少させ、医療への負荷を着実に抑えていくことが重要と認識しており、検査等を通じ、治療が必要な方々を迅速に探知し、医療に繋げるなどしながら、重点措置の下、感染リスクの高まる場面での対策に加え、高齢者施設でのオンライン面会の実施や、学校では合唱といった感染リスクの高い活動は行わないことなど、感染が広がっている場所における対策の徹底を図ってまいります。</p> <p>なお、感染症法に基づく現行の取扱いについては、今後の流行の主体となる変異株の特性や地域の感染状況はもとより、新たな知見などを踏まえた国の動向も注視しながら、適切に対応してまいります。</p>